

新月伐採!

今年 2 月 6 日、朝日放送系列の「素敵な宇宙船地球号」で「月の魔力が森を救う」～新月の木のミステリー～という番組が放映されましたが、ご覧になった方も多いと思います。私も偶然見ていたのですが、オーストリアでは昔から「冬の新月の時に切られた木で家を建てるとその家は 10 倍長持ちをする」と言い伝えられているそうです。日本で言う「寒切り材」と同じ事ではないかと思いましたが、「新月の時」と短い期間まで特定している訳がよく判りませんでした。

インターネットで調べてみましたところ、日本でも多くの企業や、NPO などが、「シックハウスにならない、健康で長持ちする家づくりに” 新月伐採材 “を使おう」という動きをしているようです。新月伐採はヨーロッパでも豊かな森に恵まれたオーストリア・チロール地方に昔から伝えられている伐採の方法です。民族楽器のアルペンホルンやバイオリンの名器ストラディバリウスなどに使われたといわれています。真冬の新月の時期に木を切り、谷に向かって倒し十分に乾燥させてから搬出し、製材するそうです。日本でも奈良県吉野地方では旧暦の 1 日、つまり新月の日前後の闇夜の日倒した木は持ちが良いという「闇伐り」の伝統があるそうです。世界最古の木造建築・法隆寺の柱にも使われているそうです。こうした伐採時期を伝える言葉は各地のあるそうですが、京都大学農学研究科で新月伐採と満月伐採の木の調査をしたところ、細胞中の水分とでんぷんの量が新月伐採の方が少なく、カビなどが発生しにくいという明確な違いがわかったそうです。

この他に、耐久性、防火性、断熱性、対電磁波、対害虫などにすぐれている事が言われています。農業でも種まきの時期など月齢に影響を受けていますが、林業でも同じ様な事があるのでしょうか。先人の知恵、「太陰暦(旧暦)」を見直してみるのはいかがでしょうか。

関連図書 「木とつきあう智慧」 エルヴィン・トマ著 宮下智恵子訳
地湧社 出版 ￥2500 円

【情 報】

かごしま材認証工場（内装材・下地材・造作材）募集始まる

昨年は認証かごしま材の構造材生産工場が 19 工場認証されましたが、今年度は内装材・下地材・造作材について認証工場を募集します。去る 7 月 8 日に説明会がありました。構造材は JAS 認定工場であることが認証の条件でしたが、今年度は JAS 認定工場と同等以上の品質管理基準を持っていれば認証されます。8 月下旬まで、申込を受け付けています。

詳しくは林材協会へお問合せください。 099-260-5356(磯脇 氏)

取引銀行の支店名が変わりました。

当社の取引銀行である鹿児島相互信用金庫・伊敷北支店が去る 7 月 19 日、城北支店として生まれ変わりました。口座番号は変わりませんが、支店名が変わりましたので変更お願い致します。

鹿児島相互信用金庫 伊敷北支店 ⇒ 城北支店
口座番号 従来どおり

【定休日】 8 月は 6, 7, 13, 14, 15, 21, 27, 28 日となります
9 月は 3, 4, 10, 11, 18, 23, 24, 25 日となります
ご協力お願いします。

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)

